

○朴 美愛 成瀬信子（文化女子大）

目的 チェック柄の色と柄のデザインによってイメージがどのように違うかを官能検査を中心として調べる。今回は色の配置とチェック柄の分割が同一であるが、デザインの方向を変えた場合の評価内容を比較検討した。

方法 試料はチェック幅を黄金分割比（1.2cm, 1.9cm, 3.1cm）の3段階とし、青、赤、黄系で、一つのチェック内では同色系の濃・中・淡色を組み合わせた。チェック柄の基本構成は同一で方向だけを変えた場合を3組製作し、合計6枚を比較検討した。SD法に用いた項目は色に関する19項目でこれらを類似な項目にグループわけをして、色とデザインに対する評価の差を検討した。

結果 1. 明るさ、濃さなど単純な項目に対してはデザインの差が見られていないが、装飾性、渋さなどの比較的総合的な項目では色系およびデザインによる差が見られた。2. 青系の場合、同一の相対明度と相対採度の試料ではチェック柄の基本構成が小さい方が大きい試料より渋いと感じる傾向が見られた。しかし、明るさに対する項目ではチェック柄の基本構成が大きい方が小さい試料より明るいと評価している。3. 赤系の場合、よこのストライプ幅が等間隔でたてのストライプの幅が変化ある時より、これらの方向を変えた試料、即ちたてのストライプが等間隔でよこのストライプの幅が変化した場合が装飾性が大きいと評価している。4. 装飾性と渋さの項目に対しては、青系は渋くても装飾的であると評価しているが、赤、黄系は装飾的であり渋くないと評価していることがわかる。